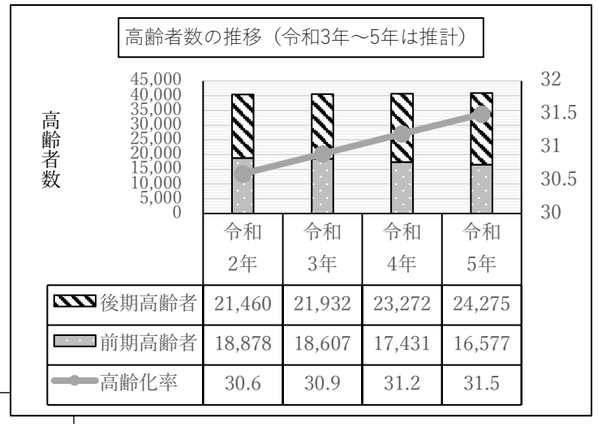
社協　第６次計画検討シート

高齢者分野

（参考資料）
職員による検討

左側キーワード
移動支援
生活支援
見守り活動

高齢者数の推移（令和3年～5年は推計）



	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
後期高齢者	21,460	21,932	23,272	24,275
前期高齢者	18,878	18,607	17,431	16,577
高齢化率	30.6	30.9	31.2	31.5

超・超高齢化社会
⇒特に、75 歳以上の人口が増加
⇒要支援・介護者、一人暮らしも増加

【目標・対策】人口ビジョンより
○誰もが安心で自分らしく快適に住み続けられるまち
○地域による支え合いが重要
○多様な主体や世代が連携
○健康寿命の延伸に向けた取り組み

右側キーワード
災害時
防犯・安全
見守り活動
生活支援
死後の手続き

【問題・課題】高齢者なんでも相談室より
・買い物・病院同行など
・日常生活の支援（掃除、ゴミ、メールの登録、）
・日常生活の支援（一時的）（家具移動、雪かき等）
・見守り活動の推進

【市民・住民に期待】高齢者なんでも相談室より
・買い物、受診の同行
・身近な手助けをしてくれる仕組み
・見守りや災害時の避難組織
・認知症の理解
・地域福祉活動の継続（担い手選び）

【社協に期待】高齢者なんでも相談室より
・日常生活自立支援事業（金銭管理）を使いやすく
・介護者のつどいの場
・身元保証人サービス
・専門機関の支援が必要なケースの調整役

住民の地域活動で行うこと（自助や共助）

（地区社協、地域の人々、地縁組織、ボランティア団体、NPO 法人、企業・商店）

社協がサポートすること

（住民の地域活動を推進する為にするべきこと）

公助や営利で行うことなど

（共助では困難なこと、引き続き検討が必要なこと）

【目標・重点施策】介護保険事業計画より
高齢者施策のビジョン（将来像）…重点施策７つ
1 2025・2040 年を見据えたサービス基盤・人的基盤の整備
2 地域共生社会の実現…見守り活動
3 介護予防・健康づくり施策の充実・推進
4 認知症施策の推進…認知症の方への見守り・声掛け
5 介護人材確保及び業務効率化の取組の強化
6 施設整備の推進
7 災害や感染症対策に係る体制整備

【課題・現状】介護保険事業計画より
在宅生活に必要な支援・サービス

（在宅介護実態調査） 65 歳以上で要支援・要介護認定を受けている在宅で生活している方	（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査） 65 歳以上で要介護認定を受けていない方
第 1 位…移送サービス（福祉タクシー等）（29, 4%）	第 1 位…移送サービス（福祉タクシー等）（40, 7%）
第 2 位…外出同行（通院等）（28, 9%）	第 2 位…配食（38, 9%）
第 3 位…掃除・洗濯（28, 4%）	第 3 位…掃除・洗濯（37, 5%）
第 4 位…配食（22, 2%）	第 4 位…外出同行（通院等）（28, 3%）
第 5 位…買い物（宅配含まず）（20, 2%）	第 5 位…買い物（宅配含まず）（26, 6%）
第 6 位…見守り、声かけ（19, 5%）	第 6 位…ゴミ出し（26, 3%）
第 7 位…ゴミ出し（19, 3%）	第 7 位…見守り・声かけ（23, 1%）

【課題・現状】住民アンケートより
現在・将来の不安
第 1 位…特に不安ではない（29, 7%）
第 2 位…家の管理・保全・処分（13, 4%）
第 3 位…行政機関での手続き（9, 9%）
第 4 位…死後の手続き（7, 5%）

【課題・現状】住民アンケートより

【地縁の必要性】	【地域活動への参加】
第 1 位…災害時（79, 8%）	第 1 位…災害時の手伝い（44, 0%）
第 2 位…防犯・安全（70, 8%）	第 2 位…高齢者等への声掛け・見守り（38, 0%）
第 3 位…情報交換（57, 6%）	第 3 位…防犯パトロール（24, 5%）
第 4 位…高齢者の見守り（48, 8%）	第 4 位…家事援助（21, 0%）
第 5 位…家事援助（42, 6%）	第 5 位…福祉イベントの手伝い（20, 0%）
第 6 位…学童の見守り（37, 9%）	第 6 位…相談にのる（16, 3%）
第 7 位…地域のイベント（29, 6%）	第 7 位…電話による声かけ・安否確認（15, 8%）

社協　第６次計画検討シート

子育て分野

（参考資料）
職員による検討

【目標】子ども発達支援計画より
・早期発見の促進（気づく・知る）
・発達支援の拡充（ニーズに応じた専門的な発達支援）
・家族支援の充実（相談体制の充実）
・地域支援の構築（状況にあわせた配慮や環境整備）
・教育支援の拡充（特別支援教育の推進）

【課題・現状】子ども総合計画より
・発達に支援が必要な子どもの増加。
・集団生活に困難さを抱える子どもの増加。
・経済的に苦しいと思っている世帯の増加。
小学生保護者３１．９%、中学生保護者４０%

【地域に期待】子ども総合計画アンケートより
・登下校時の見守りや声掛け。
小学生保護者６９．９%　中学生保護者６４．７%
・子どもを褒めたり、しかったりできる人。
小学生保護者５０．５%　中学生保護者４７．９%
・交流のできる場・安心できる居場所。
小学生保護者４４．５%　中学生保護者４１．４%

【地域や市への期待】子ども総合計画アンケートより
求められるサポート
・必要な時に利用できる託児、相談や情報取得、
病児病後児サポート。

【課題・現状】子ども総合計画アンケートより
・子どもの預け先…年々、祖父母に頼れなくなっている。
・母親の就業率が６３%**（前回から１４．７%増加）**
フルタイム就労継続希望が６０．６%
・保育園・幼稚園を利用が７２．３%
（前回から**１２．８%増加**）
・子育て支援事業（広場）は、７４．１%の人が利用し、保育園・幼稚園開放（４４．４%）よりも多い。
・６歳未満の子どものいる世帯は年々減少。
しかし、**ひとり親世帯は年々増加。**
・平成３０年度合計特殊出生率１．２７人
（前回より０．０７%増加）
・あびっ子、対象児童の６４．１%が登録。
・学童は夏休みに入室児童数が一番多い。
４月の児童数と比較して、平均１２０名程度増加。
・学童の開室時間（長期休業日）が午後７時まで。
あびっ子午後５時まで。学童が補完している。
・子ども食堂…認知度６７．２%、利用は７．２%

【目標・対策】人口ビジョンより
・若い世代にとって魅力あるまちづくり。
・自然環境を活かし、快適な住環境の形成。
・若者や女性が希望を持って、安心して暮らせる地域社会。
・日常生活を支え合う仕組み。

住民の地域活動で行うこと（自助や共助）

（地区社協、地域の人々、地縁組織、ボランティア団体、NPO 法人、企業・商店）

社協がサポートすること

（住民の地域活動を推進する為にするべきこと。）

公助や営利で行うことなど

（共助では困難なこと、引き続き検討が必要なこと）

【現状】子ども総合計画アンケート　※小学生より
地域の大人や子どもと関わり
よくある……２１．５%
時々ある……２６．１%
あまりない……２６．２%
まったくない…２４．３%　無回答１．９%

【現状】こども総合計画アンケート ※保護者より
子どもは誰と食事を食べているか
家庭類型別でみると
・小学生の保護者
「大人と一緒に」が最も高く
特に、両親共にフルタイムで６７．８%
小学生孤食０．９%　子どもだけ４．３%
・中学生の保護者
「家族全員」が最も高く
フルタイムと未就労で　８２．１%
フルタイムとパートタイム　７５．８%
両親共にフルタイム　６１．８%
中学生の孤食２．９%　「食べない」１%

【課題・現状】子ども食堂より
〇市内８か所で実施。
〇利用者は増加傾向。
〇食材・物品・助成・寄附等の安定的な確保。
〇新な子ども食堂の開設。
（開催頻度を増やすため）
〇子ども食堂を必要とする家庭が利用しやすい環境づくり。

【社協に期待】指導課より
・子ども達の学びに地域の力
・学校教育のニーズに応じた地域との連携
・学校支援ボランティアの紹介や仲介

【現状】我孫子市ｅモニターより
発達障がいを知っていますか？
詳しく知っている…４３．４
聞いたことある……５５．４%
聞いたことない……１．２%
特性までは、理解していない。

【課題・現状】子ども発達支援計画より
療育手帳の所持者のうち、
６歳～１８歳未満が年々増加傾向。
・少子化だが、**特別支援学級が増加。**
・「グレーゾーン」も含めた子どもに対しても発達面や情緒面への多様な支援が必要。

【現状】我孫子市ｅモニターより
発達障害とは、どんなイメージか？
こだわりが強い……７６．０%
落ち着きがない……７２．９%
ことばの遅れ……６４．０%
得意なことに集中する……６１．２%

【社協に期待】教育研究所ヒアリングより
・親の支援として家庭教育講演
・感情理解教育（怒りをコントロールして適切に対処する教育）
・家庭におけるスマホ等の機器の取り扱いについて

【課題・現状】教育研究所ヒアリングより
・アウトリーチによる支援が弱い。
・不登校・引きこもりの支援。
・義務教育が終了すると**支援・居場所がない。**
・フリースクールはあるが、お金がかかる。
子どもが家にいるから働けない。

【目標・対策】子ども発達支援計画より
・早期発見の促進
・発達・家族・地域・教育支援の拡充
→ライフステージをつなぐ一貫した支援

【課題】教育研究所ヒアリングより
・相談相手・ママ友がいない。
・子どもが病気の時が不安・大変。
・移動（保育園までの送迎）が大変。
・専業主婦の**孤立化**→誰とコミュニケーションをとったらいいのかわからない。

社協　第６次計画検討シート

障がい児者分野

参考資料
職員による検討

住民の地域活動で行うこと（自助や共助）

（地区社協、地域の人々、地縁組織、ボランティア団体、NPO 法人、企業・商店）

キーワード
- **障がいへの理解**
- **福祉教育**
- **ボランティア**
- **親亡き後の不安**
- **引きこもり**

【問題・課題】障害者まちかど相談室より

身体障がい
- バリアフリーが不十分
- 公的サービス（生活支援）の充実、確保

知的・発達障がい
- 当事者と家族の意向の相違が多い
- 気持ちやニーズの理解が難しい

精神障がい
- 不安などの相談、話し相手がほしい
- 生活（経済面）の把握が難しい
- 引きこもりや親の過干渉が多い
- 就労することが難しい

共通事項
- 親なき後の不安
- 身元保証人が見つからない
- 障がい特性の理解不足
- 重度化・特性への専門的な相談機関が必要
- 引きこもりに対する支援不足
- 重度の方の公的サービスが不足
- 短期入所先が少ない（緊急時の利用先）

【現状・課題】障がい者福祉施設より
- 障がいへの理解不足
- 障がい者と地域住民との交流が少ない
- 障がい者へのボランティア支援
- 障がい者福祉施設へ収益協力、販売促進
- 情報を取得できる環境がない
- 余暇活動の過ごし方

【社協に期待】障害者まちかど相談室より
- 居場所づくり
- 生活支援サービスの充実
- 精神障害者の方への傾聴利用の促進
- 日常生活自立支援事業を利用しやすく
- 困難ケースへの積極的な関わり
- 制度の狭間で利用できるサービス（社会資源）の開発
- 福祉の人材確保

施設ボランティアの状況
- 募集している　…51 件　45%
- 募集していない…18 件　55%

社協がサポートすること

（住民の地域活動を推進する為にするべきこと。）

【社協に期待】障がい者福祉施設より
- 親亡き後⇒成年後見制度の活用と促進　権利擁護体制の充実
- 金銭を含めた管理・相談⇒日常生活自立支援事業の利用の促進
- ネットワークやコーディネートの構築（地域福祉コーディネート）
- 障がいへの理解・交流の推進（当事者の参加のイベント企画等）
- 福祉教育の充実
- 居場所づくり
- ボランティアの支援
- 引きこもりに対する支援
- 地域の防災訓練へのコーディネート

公助や営利で行うことなど

（共助では困難なこと、引き続き検討が必要なこと）

【対策】障害者プランより
- 「親亡き後」⇒成年後見、グループホーム等住まいの場の確保
- 相談体制・情報提供⇒まちかど相談室の強化・充実
- 本人や親の高齢化⇒成年後見、権利擁護
- 就労の促進
- 障がいに対する理解不足⇒福祉教育
- 引きこもりに対する支援⇒ニーズ把握や居場所づくり
- 関係部署との連携
- 既存の施設や設備や機能では対応が困難
- 介護保険サービスへのズムーズな移行

【課題・現状】障害者プラン・総合計画より
- 障がい児・者数は、人口の 4.1%　増加傾向
  平成 27 年度 3.8%　⇒　平成 30 年度 4.1%
- 特に精神障がい者が増え、全体として高齢化もしている。
  身体障がい：65 歳以上･･･72.5%
  知的障がい：65 歳以上･･･ 2.6%
  精神障がい：65 歳以上･･･12.2%

【災害発生時の課題】障害者まちかど相談室より
- 避難すること自体が困難
- 環境の変化に対応できない
- 避難所で過ごすスペースの確保が困難
- パニック発作や閉塞感から不安になる
- 避難情報などが入ってこない
- SOS を発信することができない
- 医療的ケアが必要な場合の受入が困難
- 停電などの場合の発電を要する機器の備え

【災害における課題・現状】障がい者福祉施設より
- 避難訓練に地域と関わっていない……63%
- 今後、避難訓練に地域と関わる予定…21%
- 地域の方の避難を想定していない……51%

【目標・対策】障害者市民アンケートより

充実してほしい施策
- 緊急時・災害時の支援･･･････36%
- わかりやすい情報提供･･･････33%
- バリアフリーのまちづくり･･･32%
- 障害福祉サービスの充実･････30%
- 就労・社会参加の機会･･･････27%

障害児【現状・課題】教育研究所ヒアリングより
- 不登校・引きこもりの支援
- 義務教育が終了すると居場所がない
- フリースクールは、お金がかかる。子どもが家にいるため働けない
- 相談相手・ママ友がいない。
- 子どもが病気の時が不安・大変。
- 移動（保育園までの送迎）が大変。
- 専業主婦の孤立化

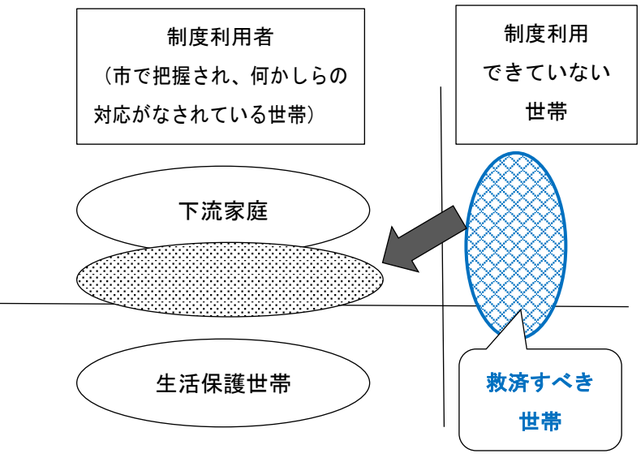
社協　第５次計画検討シート

生活困窮分野

（参考資料）
職員による検討

住民の地域活動で行うこと（自助や共助）

（地区社協、地域の人々、地縁組織、ボランティア団体、NPO 法人、企業・商店）



【現状・課題】社会福祉課ケースワーカーより
生活困窮者自立支援法により
・将来、生活保護の可能性があるケースを救済する制度。
・**生活困窮者は複数の課題を抱えているケースが多い。**
（貧困：年収 200 万円以下、就労能力に欠ける
引きこもり、発達障害、社会性に欠ける
ギャンブル、ＤＶ、虐待、買い物依存等）
・全体の把握が難しい。
・実態が掴みづらい。

【現状・課題】教育研究所より
子どもの学習支援
・貧困と合わせ、学習能力に合わせた支援が求められている。（塾に通えない、学校についていけない
・フリースクールはお金がかかり、通いづらい。
・フリースクールに通わせるために働きたいが、子どもを家に一人にするわけにはいかず、働きに出られない。

【課題・現状】子ども食堂より
・市内 8 か所で実施。
・利用者は増加傾向。
・食材等を寄附する仕組みづくりの構築。
・新な子ども食堂の開設。（ボランティア募集・会場確保・ノウハウ等）
・子ども食堂を必要とする家庭が利用しやすい環境づくり。

社協がサポートすること

（住民の地域活動を推進する為にするべきこと。）

【社協に期待】社会福祉課ケースワーカーより
・**家計相談支援事業**
…家計簿チェックと生活のチェック
・**就労準備支援事業**
…**ニートサロン**、就労相談、就労訓練
・フードバンクが対応できない場合の食料、当面の生活費等の支援。
※帰宅旅費等の対応について要件緩和

公助や営利で行うことなど

（共助では困難なこと、引き続き検討が必要なこと）

【現状・課題】社会福祉課ケースワーカーより
・**ニート・引きこもり**に対しての支援があまりない。
・家の外に居場所がない。
・親などの周りからの相談が多い。
・本人は困っていないケースが多く、支援につながら

【現状】善意銀行　小口貸付事業
（平成 29 年度）
貸付件数 144 件　貸付金額　9,296,000 円
（平成 30 年度）
貸付件数 105 件　貸付金額　6,704,000 円
（令和元年度）
貸付件数　82 件　貸付金額　4,555,000 円
（令和 2 年度）
貸付件数　95 件　貸付金額　6,744,000 円

【現状】生活福祉資金貸付状況（令和２年度）
〇新型コロナウィルス感染症の影響による
生活福祉資金の貸付実績
・相談件数　749 件
貸付件数　629 件
貸付金額　231,030,000 円
【内訳】
（緊急小口資金）
貸付件数　418 件
貸付金額　78,670,000 円
（総合支援資金）
貸付件数　211 件
貸付金額　152,360,000 円

コロナ禍で
困窮世帯が
増加

【現状】子ども支援課より　児童扶養手当

	（受給者）	（登録者）
平成 29 年度	699 名	849 名
平成 30 年度	689 名	840 名
令和元年度	668 名	820 名
令和 2 年度	621 名	782 名
令和 3 年度	580 名	763 名

【現状】社会福祉課ケースワーカーより（生活相談データ）
・相談件数　3,421 件（令和 2 年度）
・相談内容　1 位：収入・生活費（27.5%）
2 位：家族との関係など（19.7%）
3 位：家賃・ローンの支払い（9.6%）
・相談経路
本人（68.9%）＞関係機関（16.5%）＞家族・知人（4.8%）

（参考資料）
職員による検討

社協　第６次計画検討シート

自治会分野

住民の地域活動で行うこと（自助や共助）

（地区社協、地域の人々、地縁組織、ボランティア団体、NPO 法人、企業・商店）

社協がサポートすること

（住民の地域活動を推進する為にするべきこと。）

公助や営利で行うことなど

（共助では困難なこと、引き続き検討が必要なこと）

【現状】市民活動支援課より
自治会の規模　令和３年度４月１日現在　１８８自治会
※令和２年度に２自治会（集合住宅）が解散している。

【課題】自治会アンケートより
支援を必要とする方への対応について
・話合いや取組みに至っていない…６４％
・話合いや取り組む必要性をあまり感じない…１９％
・必要性を感じて取り組んでいる…５％
※小規模～中規模の自治会（５１世帯～２００世帯）ほど、話し合いや取組みに至っていない傾向にある。
・約８割の自治会が話合いをしていない。

【現状】自治会アンケートより
〇実施している行事
１位…総会……８１％
２位…防犯パトロール…６５％
３位…クリーン作戦……５５％
４位…防災訓練……４６％
５位…納涼会・夏祭り…３８％
〇交流行事の年間総数
０回…１２％
１～３回…５４％
４～５回…１６％
６回以上…１９％
※自治会の規模が大きいほど、『会員の交流』を盛んに行っている傾向にある。

【課題】自治会アンケートより
たいへんな活動は？
１位…総会（資料作成含め）…３６％
２位…回覧・掲示板……２１％
３位…ゴミ出し当番・管理……２０％
４位…環境美化（花壇整理）…１５％
※我孫子市 ｅモニターからも、「資源回収用具の出入」が大変との意見あり。

【社協に期待】自治会アンケートより
どのような支援が必要か？
１位…**自治会の相談と課題解決の支援**…４１％
２位…**自治会業務の一部請負**……３７％
３位…**自治会活動の紹介**……３４％
４位…リーダー研修・情報交換会……１１％

【NPO や他団体に期待】自治会アンケートより
請け負ってもらいたい事柄。（１６/１３１件）
・草取り・清掃・剪定……７件
・ゴミ管理……５件
・イベントの開催……３件
・管理業務……２件
・災害時・非常時の支援…２件

負の連鎖

【課題・現状】自治会アンケートより
住民の高齢化・疎遠化による
「役員の担い手不足」
→役員の仕事を減らす、マンネリ化
→行事が減り活気がなくなる
→住民の疎遠化
→**「役員の担い手不足」**

【地域課題】自治会アンケートより
１位…ゴミ出し問題…３６％
※高齢化により資源回収用具の管理や出し入れができない人が増加
※他地区からのゴミ持ち込み問題。
※カラス等の動物による被害の問題。
２位…空き家問題・防犯治安問題
（防犯治安に不安を感じる住民の増加）
※空き家問題では、**外部に管理委託**をしている自治会もある。
３位…行事に活気がない

【対策】自治会アンケートより
自治会が取り組んでいる地域課題（３３件回答）
１位…防災関係２２％　以下、自治会での対応。
・災害支援の安否確認データの整備。
・「災害要支援者確認シート」を各世帯が記入。
・安否確認訓練の実施。
２位…見守り関係１８％
・向こう三軒両隣による見守り。（２件）
・回覧板による安否確認。
２位…組織関係１８％
・SNS の活用。（LINE を活用した役員用連絡網）
・役員対象のパソコン・スマホ教室の開催。
３位…ゴミ関係１５％
・当番制や役割分担の見直し。
・資源ごみ収集用具保管用にゴミ置き場に小さなロッカーを設置し、ゴミ問題を解消。

社協　第６次計画検討シート

高齢者・障がい者施設分野

参考資料
職員による検討

住民の地域活動で行うこと（自助や共助）

（地区社協、地域の人々、地縁組織、ボランティア団体、NPO 法人、企業・商店）

高齢者入所 50 施設へ配布し、３５件返信（回収率 75%）

【地域との関わり】高齢者入所施設アンケートより
施設の季節行事へのお誘い
・地域の方を招いている…37%、いない…63%
行事の内容
・納涼祭・夏祭り…69%
　敬老会…15%
　新年会…16%
介護教室等の学習会の開催
・開催している…14%（講座やリハビリ教室）
会議室等の貸出
・している…26%　・今後していきたい…11%
物品の貸出
会議室等 5 件、車いす 3 件、テント 1 件、他 5 件

高齢者入所施設キーワード
・地域との関わりを持ちたい
・施設ボランティア
・イベント・行事に招く
・物品の貸出
・学習会や行事への参加
・職員、ボランティアの募集

【施設ボランティアの状況】
高齢者入所施設アンケートより
・募集している　19 件…54%
・募集していない　15 件…43%
・無回答　1 件…3%

【課題・現状】高齢者入所施設アンケートより
職員・ボランティアの募集の支援が必要か
・必要ない（無回答）…14%
・必要…86%
　正規職員の募集…63%
　パート・アルバイトの募集…77%
　ボランティアの募集…53%

【災害の課題・現状】高齢者入所施設アンケートより
防災・災害
・避難訓練に地域が関わっていない…49%
・今後避難訓練に地域と関わる予定…20%
・地域の方の避難を準備・想定していない…35%

【災害の課題・現状】高齢者入所施設アンケートより
社協による地域住民とのコーディネート
・必要である …70%
・必要ない　…30%

社協がサポートすること

（住民の地域活動を推進する為にするべきこと。）

【地域との関わり】高齢者入所施設アンケート
地域との関わりでのメリット
第 1 位：入所者にとってプラス…86%
第 2 位：施設の活性化…74%
第 3 位：施設サービスの PR になる…54%
第 4 位：職員にとってプラス…51%
第 5 位：施設（職員）の第三者の目として…17%

施設にとってメリットは多い

公助や営利で行うことなど

（共助では困難なこと、引き続き検討が必要なこと）

【社協に期待】障がい者施設アンケートより
・親亡き後⇒成年後見制度の活用と促進
・障害への理解・交流の推進（当事者の参加のイベント企画等）
・福祉教育の充実
・居場所づくり
・引きこもりに対する支援
・金銭を含めた管理・相談⇒日常生活自立支援事業の利用の促進
・ネットワークやコーディネートの構築（地域福祉コーディネート）
・地域の防災訓練へのコーディネート

障がい者福祉６０施設へ配布し、３３件返信（回収率 55%）

【現状・課題】障がい者福祉アンケート施設より
・障がいへの理解不足
・障がい者福祉施設との交流
・障がい者福祉施設へボランティアを含めた人材支援
・障がい者福祉施設へ収益協力、販売促進
・情報を取得できる環境がない
・余暇活動の過ごし方

障がい者施設キーワード
・親亡き後
・理解と交流
・災害時
・地域福祉コーディネート
・居場所づくり

【災害の課題・現状】障がい者福祉施設より
防災・災害
・避難訓練に地域と関わっていない…63%
・今後避難訓練に地域と関わる予定…21%
・地域の方の避難を準備・想定していない…51%

【災害発生時の課題】障害者まちかど相談室より
・避難すること自体が困難
・環境の変化に対応できない
・避難場所で過ごす、スペースの確保が困難
・パニック発作や閉塞感から不安になる
・情報が入ってこない
・SOS を発信することができない
・医療的ケアが必要な場合の受け入れが困難
・停電などの場合の発電を要する機器の備え

【社会貢献について】障がい者施設アンケートより
・ゴミ拾い　・見守り　・会議室等の貸し出し
・子ども食堂　・サロン　・イベントの開催
・夜間中学開催　・フードバンク

【課題・対策】障害者プランより
・親亡き後
・高齢化・重度化した場合
・既存の施設や設備、機能では対応が困難
・介護保険サービスへのスムーズな移行
・相談支援体制の強化・充実

【施設ボランティアの状況】
障害者福祉施設アンケートより
・募集している　15 件…45%
・募集していない　18 件…55%